

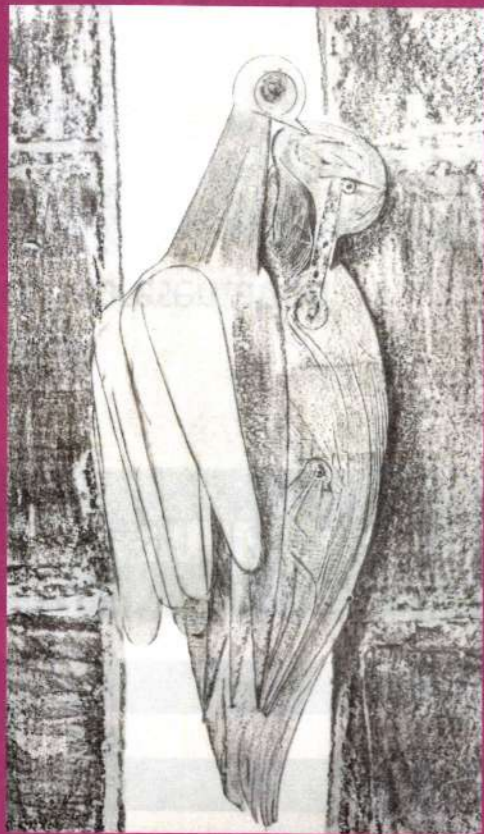
現実より現実らしい、夢と無意識（むいしき）の世界

あそびの達人☆シュルレアリストたち。

エルンストの分身それともおぼけ?! 「ロフロフ」

マックス・エルンストの作品の中にはくりかえし、「鳥」がでてきます。これはエルンストの分身や幽霊といわれています。

エルンストが子どもの頃に大切に飼っていたオウムが死んだ時に、自分の妹が生まれたという事実に衝撃を受け、その後エルンストの中で「鳥」のイメージが重要なモチーフとなりました。今回展示している「百頭女」にも主要なキャラクターとして登場します。探してみましょう!



『博物誌』より《夫婦のダイヤモンド》1926年
マックス・エルンスト

甘美な死骸（かんびなしかい）ゲーム

右の作品はチェコ出身のシュルレアリスト、ヤン・シュヴァンクマイエルと奥さんのエヴァが交互に描いてできたものです。

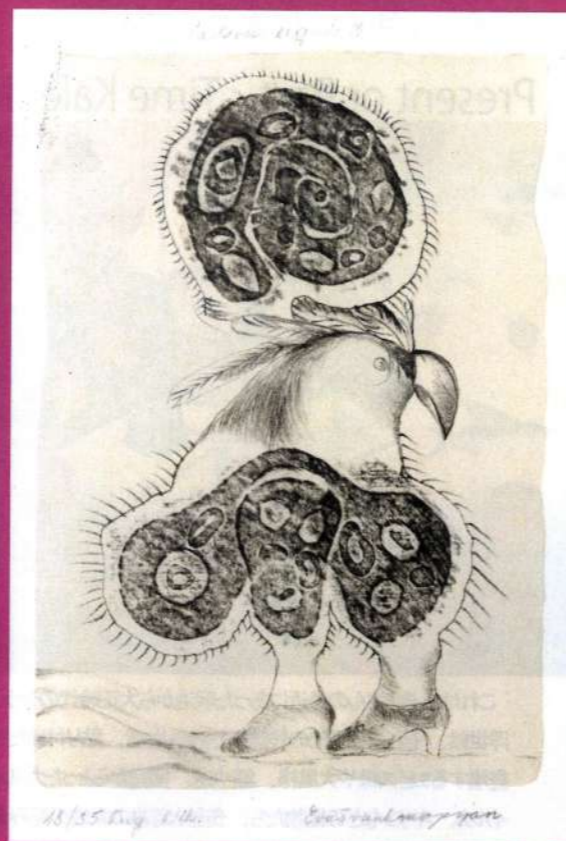
上からヤンのフロッタージュ（こすり出して模様を描く技法）とエヴァのドローイングが繰り返され1つの作品になっています。

描くときに紙を4つに折り曲げ、頭・胸・お腹・足の4パートに分け、上と下の部分を隠して（2人以上で）人物像の各パーツを描きます。最後に完成したものを広げると、前後のつながりのない、予想外の奇妙な生き物（珍獣）があらわれるのです。

アンドレ・ブルトンやポール・エリュアール、ルネ・マグリット、

ジャック・フレヴェールなどのシュルレアリストたちは詩文をこの方法で作りました。

これはシュルレアリスムの遊びの1つです。



《甘美な死骸》2000年 ヤン&エヴァ・シュヴァンクマイエル



《泉》1917年 マルセル・デュシャン

え？左のこれはアートなの？

そうさ、これはね、《泉》（いずみ）という20世紀の美術作品でもっとも影響力の大きかったといわれる重要な作品だ。

だれが作ったの？

これは、フランスのマルセル・デュシャンという人が、もともとあった便器にサインをして向きを変えて展示しただけのものだよ。

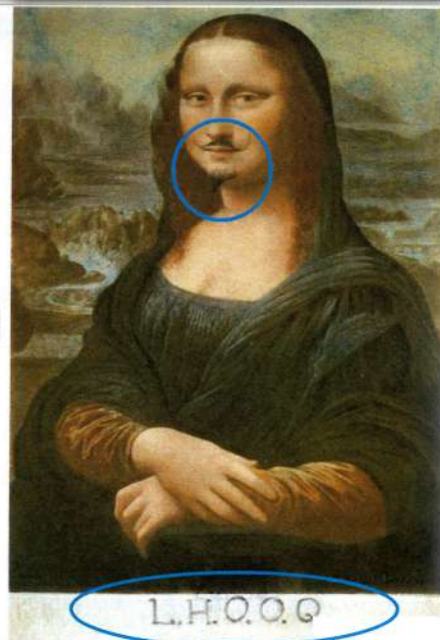
何がすごいのだろう。きれいでも、かっこよくもないな。だってトイレだよ。

そうだね、でもこれは世界で一番有名なトイレかもしれない。デュシャンは、この作品をアートとして発表することで、当時の美術にたずさわる人たちに、大議論をふっかけたのさ。いままでのめざしていたアートは偽物（にせもの）の世界であり、それには限界があるのではとね。

その他にはどんな作品を作ったの？シュルレアリスムとどう関係があるんだろう。

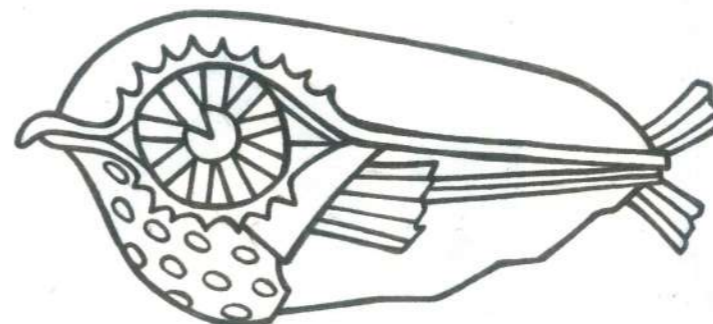
丸イスに自転車の車輪をひっくりかえしてのせたものから、雪かき用シャベル、それから、レオナルド・ダヴィンチのモナリザにひげやタイトルをかきたしたものなど（右上）、色々なものがあるよ。デュシャンはいたずらや遊びもアートになるとして、今までの美術の決まりごとをひっくりかえし、もともとある作品を使って発表したものをレディ・メイド（既製品）としてそれがオブジェとよばれるようになるんだ。

つまり、シュルレアリスムも、デュシャンの遊びがヒントになって広まるということなんだね。

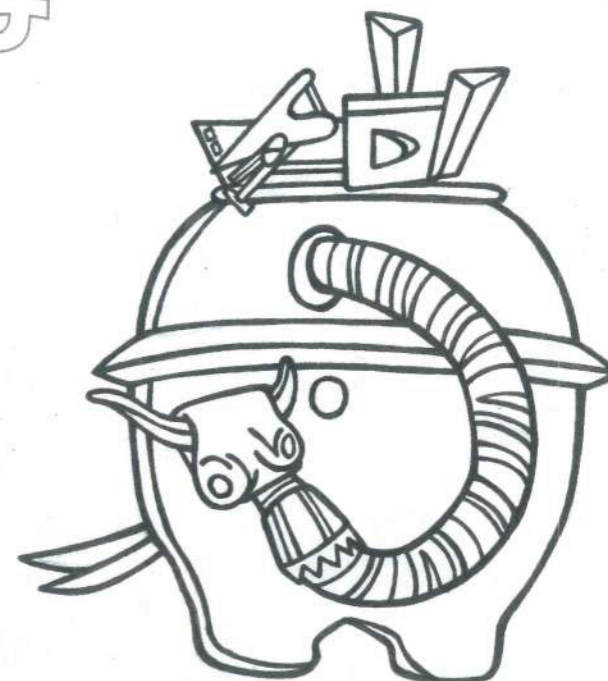


マックス・エルンスト ぬりえひろば

好きな色をぬってかんせいさせよう!



どこかにあるよ。さがしてみよう



セレベスのぞう

遊びやいたずら心にあふれた、人間の真理（しんり）を発見するための実験と運動

シュルレアリスムってなんだろう？